

講演会 & ライブ な日々②

古川 秀明

前回のあらすじ

乳幼児とその母親対象のライブを依頼された私は、いかに幼い子と母に集中して聴いてもらうのかに困った。そこで団先生のアドバイスを頂いた。

団先生のアドバイス

- ①ただ歌を聴かせるだけなら、単なる余興に終わってしまう。その時面白くても、会場を出たらすぐに忘れてしまう。
- ②せっかく同じ地域に住む100組の母子が集うのだから、その地域で役立つようなことをすれば良い。
- ③知らない人同士が知り合うことで生まれるつながりをプロデュースすれば良い。

なるほどなあ。よし、早速組み立ててみよう。

テーマは③の「知らない人同士が知り合う」にしよう。そうすれば地域での情報交換や声かけなどのセキュリティも充実するのではないか。

手立て

1. 100組の母子をまず二つに分けて、そのなかでペアリングする。
- 二分割の方法は男女で分けるか、誕生日でわけることにしよう。

<反省>

誕生日で分けたのだが、かなり片寄りが出た。今回は夏に生まれた子が少なかった。確率で言えば男女の出生比率は1 : 1なので、男女別の方が良かったかもしれない。

2. なるべく知らない人どうしでペアになってもらって語ってもらう

- 語る内容は子どもの名付け。誰が付けたのか、どんな意味があるのかなど、名前が決められたプロセスをお互いに語ってもらった。
- これが大盛況だった。ペアの子の名前の由来を聞くことで、より深く自分の中にペアの記憶が刷り込まれる。
- これで、ペアの子が公園とかで遊んでいたら、名前が分かるし、声もかけやすく、セキュリティもアップする

3. お互いに打ち解けたところで、子どもを交換し、みんなでおもちゃのチャチャチャを歌う

- これも盛り上がった。「チャチャチャ」のところはこちらがタンバリンを鳴らし、お母さんがペアの子の手を持って「チャチャチャ」と手拍子させてあげる。
- 泣きだす子もいたが、目の前に自分の母親がいるので、みんな楽しそうに歌っていた。

4. オリジナルの赤ちゃん体操「お背中とんとん子守唄」を歌い、赤ちゃんマッサージをしてもらう

- これはどこの保育所や幼稚園でやっても人気があるので自信があった。ここでもみなさんに喜んでもらえた。

5. お母さんの応援歌を歌う。

- 4. ままで時間が45分過ぎた。残り15分。最後はオリジナルの歌を聴いてもらうことにする。

- 「どうぞそのまま」「がんばれ！お母さん」を歌う。
- 会場からすすり泣く声が聞こえてきた。

<感想>

気が付けばあっという間に終わっていた。参加者からもたくさん感想をもらった。(以下感想の一部)

- 「あっという間に終わって楽しかったです」
- 「歌に泣いてしまいました」
- 「私自身が凄いい人見知りで、子育てしていても孤独を感じていたのですが、今日の講演会&ライブに来させてもらって、まったく知らない人と話できました。しかも、そのお母さん、すぐ近くに住んでらっしゃることが分かりました。こんど子どもと一緒にランチに行く約束をしました。なんかちょっと幸せな気分です。ありがとうございました」
- 「今日の講演会に来る時、正直ちょっと面倒臭いなあ、退屈な話だと子どもが騒ぎ出したら嫌だなあと思っていましたが、最初からゲラゲラ笑わせてもらい、気が付いたらもうおしまい？と感じでした。歌もあって本当に楽しかったです。ありがとうございました」
- 「どうぞそのまま」という歌に涙がでました。
- 子どもが泣きだした時など、地域の子育て支援サポーターのみなさんがいろいろフォローして下さって助かりました。
- 最初に保健師さんや、子育てサポーターの方の紹介があったので、これから先、何かとお世話になるのに大変役立ちました。

最初はどのようにして良いかわからなかったのですが、1時間はとても長いように思えたが、団先生のアドバイスで骨組みができてからは、逆に予定の内容や歌を削りこむ作業に追われた。

なにはともあれ大成功で、いつもながら団先生に感謝です。